

## 2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	検定対策(文字・語彙)	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	102	
担当教員名		
実務経験	有・(無)	
授業の目的	日本語の基礎となる文字・語彙を学び、日本語力を向上させる日本語能力試験N3に合格できるレベルに到達し、N2レベルを学ぶ	
期間目標	前期	日本語能力試験N3～N2
	後期	日本語能力試験N2
使用教材	教科書とプリント資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	前期 日本語能力試験N3レベルの日本語を学び、基礎力を身に着ける 後期 日本語能力試験N3に合格できるレベルに到達し、N2レベルを学ぶ	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合 計		102
到達目標	日本語能力試験N2	
成績評価基準	①評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	検定対策(文法)	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	136	
担当教員名		
実務経験	有・ <input checked="" type="radio"/>	
授業の目的	日本語の基礎となる文法を学び、日本語力を向上させる日本語能力試験N3に合格できるレベルに到達し、N2レベルを学ぶ	
期間目標	前期	日本語能力試験N3～N2
	後期	日本語能力試験N2
使用教材	教科書とプリント資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	前期 日本語能力試験N3レベルの日本語を学び、基礎力を身に着ける 後期 日本語能力試験N3に合格できるレベルに到達し、N2レベルを学ぶ	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合 計		136
到達目標	日本語能力試験N2	
成績評価基準	①評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	講義・実習	
科目名	検定対策(聴読解)	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	102	
担当教員名		
実務経験	有・無	
授業の目的	聞く力、読む力を身に付け、日本語力を向上させる日本語能力試験N3に合格できるレベルに到達し、N2レベルを学ぶ	
期間目標	前期	日本語能力試験N3～N2
	後期	日本語能力試験N2
使用教材	教科書とプリント資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	前期 日本語能力試験N3レベルの日本語を学び、基礎力を身に着ける 後期 日本語能力試験N3に合格できるレベルに到達し、N2レベルを学ぶ	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合 計		102
到達目標	日本語能力試験N2	
成績評価基準	①評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試験受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	講義・実習	
科目名	ビジネス日本語	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	68	
担当教員名		
実務経験	有・無	
授業の目的	ITエンジニアとして働くために必要な日本語を学び、就職後即戦力として企業で働ける日本語力を養成する	
期間目標	前期	ITを学ぶために必要な基本的なIT用語を習得し、IT技術学習に生かす
	後期	ITを学ぶために必要な基本的なIT用語を習得し、IT技術学習に生かす
使用教材	学校作成資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	<p>主に学ぶカテゴリーは以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードウェア</li> <li>・ソフトウェア</li> <li>・データベース</li> <li>・ネットワーク、セキュリティ</li> <li>・システムの導入と開発、マネジメント</li> </ul>	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合 計		68
到達目標	ITを学ぶために必要な基本的なIT用語を習得し、IT技術学習に生かす	
成績評価基準	<p>① 評価は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う</p> <p>② 成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。          特優=90~100点 優=75~89点 良=60~74点 可=40~59点 不可=40点未満</p> <p>③ 追試験          定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試験受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)</p>	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

## 2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	IT基礎理論	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	68	
担当教員名		
実務経験	(有)・無	
	IT会社での経験を活かし、実践につながる指導を行う	
授業の目的	ITにかかわる用語を理解し、コンピュータ、ネットワーク等の基本的なICTの構成要素、およびファイルシステムやデータベースの基本的な構造と使い方を理解する。	
期間目標	前期	社会におけるITの利活用の動向や重要性について理解し、説明することができる
	後期	ITを構成する基本的な構成要素や基本的な仕組み全般を理解し、説明することができる
使用教材	教科書とプリント資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	<p>■コンピュータの発展の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各年代でのコンピュータ機能とその使われ方</li> <li>・ネットワークがつながること、早くなることによる効果</li> </ul> <p>■コンピュータの利用形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人での利用形態</li> <li>・仕事での利用形態</li> </ul> <p>■ハードウェアとソフトウェアの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードウェアの構成要素</li> <li>・ソフトウェアとは何か、種類と構成</li> <li>・データとその永続化技術(ファイルシステム・データベース)</li> </ul>	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合 計		68
到達目標	社会におけるITの利活用の動向や重要性およびITを構成する基本的な構成要素や基本的な仕組み全般について理解し、説明することができる	
成績評価基準	<p>① 評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う</p> <p>② 成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。          特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満</p> <p>③ 追試験          定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)</p>	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	コンピュータシステム理論	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	68	
担当教員名		
実務経験	(有)・無	
	IT会社での経験を活かし、実践につながる指導を行う	
授業の目的	コンピュータを構成する各要素の動作原理を理解し、基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、外部装置の動作のしくみを理解する。またコンピュータを用いた典型的なシステムにおける動きを理解する。	
期間目標	前期	コンピュータの構成要素を説明することができる OSおよびアプリケーションの動きと役割を説明することができる
	後期	OSおよびアプリケーションの動きと役割を説明することができる コンピュータの種類と典型的な利用例を説明することができる
使用教材	教科書とプリント資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コンピュータの構成要素                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの5大装置</li> <li>・外部記憶装置</li> <li>・接続機能(ネットワーク、周辺機器)</li> </ul> </li> <li>■コンピュータが動くしくみ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブール代数と2進数、デジタル回路の基礎</li> <li>・基本ソフトウェア、応用ソフトウェア</li> <li>・データベース、ネットワーク通信、クライアントサーバシステム</li> </ul> </li> <li>■プログラミング言語                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング言語の歴史と種類</li> <li>・プログラミング技術の概要</li> </ul> </li> </ul>	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合 計		68
到達目標	コンピュータの構成要素、OSおよびアプリケーションの動きと役割およびコンピュータの種類と典型的な利用例を説明することができる	
成績評価基準	①評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90~100点 優=75~89点 良=60~74点 可=40~59点 不可=40点未満 ③追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

## 2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	開発技術知識	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	136	
担当教員名		
実務経験	○・無	
	IT会社での経験を活かし、実践につながる指導を行う	
授業の目的	システム構築とソフトウェア開発の工程及び手法、その作業環境などについて、概要を理解するとともに、プログラミング以外にどのような作業があるか、具体的な作業イメージを理解する。	
期間目標	前期	開発手法にはどのようなものがあるかを説明することができる プログラミングについて、そこでおこなわれる作業を説明できる
	後期	プログラミングについて、そこでおこなわれる作業を説明できる テストの種類と、その目的や手法を説明することができる
使用教材	教科書とプリント資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■開発方法およびユーザーと開発者とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーターフォール型</li> <li>・スパイラル型</li> <li>・アジャイル型</li> </ul> </li> <li>■ウォーターフォール型における各ステップ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各工程の目的、入力情報、成果物</li> </ul> </li> <li>■さまざまな開発ツールの紹介                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム開発のためのツール</li> <li>・プロジェクトの状態(要件・バグ・進捗)などを管理するツール</li> <li>・成果物を管理するツール</li> </ul> </li> <li>■プログラミング演習                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・Javaによるプログラム作成～実行</li> </ul> </li> </ul>	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合 計		136
到達目標	開発手法の種類、プログラミングについての作業およびテストの種類とその目的や手法を説明することができる	
成績評価基準	①評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試験受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	システム戦略論	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	68	
担当教員名		
実務経験	(有)・無	
	IT会社での経験を活かし、実践につながる指導を行う	
授業の目的	コンピュータ技術の進展にあわせた現在の利用形態と将来の展望について理解する。 コンピュータの歴史的な変遷を学ぶとともに、活用事例をもとにこれからの使われ方について考察す	
期間目標	前期	身近なところでどのようにコンピュータが使われているか、調べて発表することができる
	後期	これからのシステム開発者に必要といわれるUI/UXとは何かについて、概要を説明することができる
使用教材	教科書とプリント資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	<p>■IT技術の進展と実現手段の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンプレミス→クラウド(SaaS、IaaS、PaaS 等)</li> <li>・AI、量子コンピュータ、セキュリティ対策</li> </ul> <p>■オープン化の進展と開発スタイルの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジャイル型開発の台頭とデザイン思考</li> <li>・ライブラリ、フレームワーク、ローコードツールの充実</li> <li>・DXの進展とITを扱う担当者の裾野の拡大、およびUI/UXの観点</li> </ul> <p>■Society 5.0 について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの生活におけるICT</li> <li>・ICT関連の仕事</li> </ul>	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合 計		68
到達目標	どのようにコンピュータが使われているか、調べて発表、これからのシステム開発者に必要といわれるUI/UXとは何かについて、概要を説明することができる	
成績評価基準	<p>① 評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う</p> <p>② 成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90~100点 優=75~89点 良=60~74点 可=40~59点 不可=40点未満</p> <p>③ 追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)</p>	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	講義・実習	
科目名	キャリア形成	
必修・選択	必修	
対象学科	国際IT基礎科 一年生	
時間数	68	
担当教員名		
実務経験	有・無	
授業の目的	ITエンジニアとして、IT業界に就職するためのキャリア教育	
期間目標	前期	ITエンジニア、IT業界についての知識を身に着けて自分のキャリアを形成することに対する意識を高め、就職活動に備える
	後期	ITエンジニア、IT業界についての知識を身に着けて自分のキャリアを形成することに対する意識を高め、就職活動に備える
使用教材	学校作成資料を配布	
<b>授業計画</b>		
月	指導計画内容	時間数
4月	<p>主に学ぶカテゴリーは以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IT業界について</li> <li>・ITエンジニアとは 仕事の基礎・エンジニアの種類・目標設定</li> <li>・就職について 企業と業務を知り、方向性を決める</li> </ul>	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
合計		68
到達目標	ITエンジニア、IT業界についての知識を身に着けて自分のキャリアを形成することに対する意識を高め、就職活動に備える	
成績評価基準	<p>①評価は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う</p> <p>②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。          特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満</p> <p>③追試験          定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)</p>	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	